

FUREAI NEWS

アクアリウムさがみはら情報誌
Vol.11



相模川ふれあい科学館
アクアリウムさがみはら

はじめに	2
森のカエル水槽	3
地域連携	4
調査・研究 他団体・他機関との連携	6
ミニ企画展示	7
屋外イベント	8
ふれあい田んぼ探検隊	9
特別企画展	
◇とぶ！生き物展	10
◇いきもの超☆能力展	12
◇貝展	14
◇溪流展	16
マンスリー水槽	18
ミニトーク水槽	19
海の生き物水槽	20
小川の実験観察テーブル	21
水辺の生き物水槽	22
常設トピックス	
インターンシップ・学芸員実習	
ものづくりワークショップ	23

「地域に根差した情報発信を胸に」

相模川ふれあい科学館
アクアリウムさがみはら
館長 伊藤 寿茂



皆さまこんにちは。先代館長の坂野に代わり、2024年度から館長に就任致しました伊藤と申します。2024年度は、おかげさまで多くのお客様をお迎えすることができ、年度の合計入館者数は21万人程度の見込みとなりました。心より御礼を申し上げますとともに、引き続きのご愛顧をどうぞよろしくお願い致します。

当館と、藤沢市にあります新江ノ島水族館、そして岐阜県にあります世界淡水魚園水族館「アクア・トトぎふ」の3館は、株式会社江ノ島マリンコーポレーションによって管理運営されております。当社の旧称は「株式会社江ノ島の水族館」であり、1952年以来、水族館事業のパイオニアとして「水族館は、楽しくて、ためになって、夢が持てる場」の理念を胸に、活動を続けています。

さて、私自身のことで恐縮ですが、今年は水族館で働き始めて20年目の節目となる年でもありました。当館に赴任したのは今から3年前で、それまでは新江ノ島水族館で飼育員をしていました。その頃から、相模川ふれあい科学館は、私にとってあこがれの水族館でした。まさか、そこで働くことになり、館長を務めることになるとは、夢にも思っていませんでした。

生まれてからずっと神奈川県で育ってきた私にとって、相模川は最も身近な水辺のひとつです。幼少時、父親に連れられて河口でカニを採集したり、支流でマハゼやギンブナを釣ったのが、つい先日の事のように思い出されます。物心つく頃にはすっかり生き物が大好きになっていて、高校生の頃には生き物に関わる仕事をしたいと心に決め、水産関係の大学にすみました。大学時代に出会った恩師からは、生き物や自然を自分だけで楽しむだけでなく、それらについて調べて、分かったことをまとめ、広く情報発信することの意義を学ぶことができました。そうすることで、人を含む生き物をすることに貢献でき、豊かな地球環境を未来へつなぐことになると信じるようになって、今があります。

2024年は株式会社江ノ島マリンコーポレーションによる指定管理者3期目の初年度でもありました。先に申し上げた通り、多くのお客様をお迎えできたことは、私たちの水族館づくりの姿勢をポジティブに受け入れて頂いた結果とも感じており、本当にうれしく思います。これからも、相模川流域を中心とする地元の自然や、それに関連した多くの生き物について、展示やイベント、調査研究を通じて「面白くて、ためになる」活動を続け、「また来たい水族館」を目指していきます。これからも、相模川ふれあい科学館へのご指導を賜りますよう、よろしくお願い致します。

新展示
森のカエル水槽

亀ヶ谷 千尋

「歩いていたら、上からカエルが落ちてきた。」
…なんて経験ありますか？

私はあります。木々の間の散歩道を歩いていたら、上からニホンアマガエルが落ちてきたのです。「木の上にカエル？」と思う方もいるかもしれません。アマガエルというと「田んぼ」のイメージがありますが、ニホンアマガエルが田んぼにいるのは繁殖の時期で、普段は水辺に近い草地や森の木の上などで暮らしています。その他にも森にくらすカエルには、モリアオガエルやヤマアカガエルなどがいます。

カエルというのは「水辺」だけでなく、色々なところで暮らしているということを皆さんに知ってもらいたくて、今回作ったのが「森のカエル水槽」です。

当館には元々、カエルやサンショウウオなどを展示する「両生類水槽」がありました。でも、この水槽は高さがあるため、吸盤のある樹上性のカエルを展示すると、みんな水槽の上の方に登ってしまい、なかなかカエルが見えないという難点がありました。そこで森のカエル水槽では、あまり高さのない水槽を設置し、カエルたちが登りやすい植物を植えることで、樹上性のカエルたちも観察しやすくなりました。

森に暮らすカエルたちの、本来の姿に近い様子をご覧くださいと思います。

展示種：アズマヒキガエル、シュレーゲルアオガエル、ニホンアマガエル、ヤマアカガエル



シュレーゲルアオガエル



ヤマアカガエル



ニホンアマガエル



アズマヒキガエル

地域連携

近隣の幼稚園・保育園・学校との取組

『総合的な学習の時間と田名北水族館』(田名北小学校3年生)



2024年3月23日～4月23日まで、館内のエントランス通路で「田名北水族館」と題して特別展示を行いました。これは2023年度の田名北小学校3年生の「総合的な学習」の集大成です。数ヶ月間にわたり、自分たちで生き物を採集し、水槽を管理しながら管理してきました。それを通して、相模川の自然について身をもって学べたのではないかと思います。

2024年度も、新たな3年生が同様の学習を始めています。自分たちで調べ、考えながら、生き物たちを相手に奮闘しています。これからも、その熱意に応えるべく、お手伝いを続けたいと思っています。



『中庭の池での委員会活動』(田名小学校4～5年生)



今年度の田名小学校との活動は、飼育栽培委員会、体育委員会との協働でした。創立150周年を迎える田名小学校の記念事業の一つとして、中庭の池「サイコ池」の補修および生物多様性を再現する計画をしています。「かながわ淡水魚復元研究会」の勝呂尚之会長にも協力を頂き、池の現状点

検のための落水に合わせて生き物を救出しながら、どんな種類がいるのか観察し、一時的に飼育しました。ミナミメダカがとて多く、長年にわたって池の中で繁殖し、代を重ねていたことが分かりました。今後は、生き物をより安全に、観察しやすい池づくりを目指します。



『稚鮎放流会』

(田名幼稚園、友愛保育園、桑の実保育園の園児たち)

毎年、アユが遡上してくる春に、稚アユの放流会を実施しています。5月初旬に予定した日程が、荒天のために5月21日に延期となりました。当日は良く晴れ、引率の先生方にもご協力を頂きながら、安全に放流を行うことが出来ました。園児たちも嬉しそうに、元気よく泳ぎ去るアユたちを見送っていました。



『田んぼ体験』

(田名幼稚園、友愛保育園、桑の実保育園の園児たち)

今年も近隣の幼稚園・保育園の元気いっぱいな園児たちと一緒にお米作りをおこないました。田植えと稲刈り、脱穀・風選まで一年を通した体験で、楽しみながらお米作りができました。最後は育ったお米を園児たちにお届けしました。元気をいっぱいもらったお米はきっとおいしく育ったことでしょう！



『花苗植え』

(友愛保育園)

当館は友愛保育園と相模原市まち・みどり公社が行っている「花のまちづくり・みどりいっぱい運動」に参加しています。

春(6月)と秋(11月)には友愛保育園の園児たちと一緒に、季節の花を植えています。春にはニチニチソウ、ポチュルカ、赤と青のサルビア。秋にはパンジー、ビオラ、ノースポールを植えました。今年もお魚型の花壇が色とりどりの花でいっぱいになりました！

園児たちと一緒に作った花壇をぜひ見に来てください。



調 査 ・ 研 究

伊藤 寿茂

相模川ふれあい科学館では、飼育員が得意分野を生かし、時に他機関と連携して、身近な自然を調査・研究しています。「調査・研究」は水族館の社会的機能として、「種の保存」や「教育」「レクリエーション」などと並ぶ大切な活動です。生き物の生態や分布について、分かったことを発表会でお話ししたり、論文にまとめて誰でも読めるようにします。そして、その内容を展示に反映させることで、ご来館された皆さまに分かりやすくお伝えすることが出来ると考えています。

蓮池における魚類・底生動物調査 (かながわ淡水魚復元研究会に協力)



参加日：2024.5.30
参加者：伊藤 寿茂

藤沢市鵠沼に位置する「蓮池」は、在来種のミナメダカ(通称藤沢メダカ)が生息していたことで知られます。本水域の復元を目的として、アミを用いて池の中の生き物を調べ、現状を確認しました。アメリカザリガニやミシシippアカミミガメなどの外来種が多く確認され、在来種の少なさを確認する機会となりました。

ミヤコタナゴの保護育成に伴う個体数調査 (横浜市教育委員会に協力)



参加日：2024.11.6
参加者：狩俣 優太

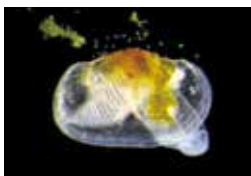
屋外池で飼育管理されているミヤコタナゴの繁殖状況の確認を兼ねて、飼育設備の落水清掃と個体の計数、計測を行いました。

水生動物 Vol. 2024 (査読付論文) 2024.5公開

飼育下で観察されたカタドブガイ幼生の 宿主魚類と初期発生

著者：伊藤 寿茂(相模川ふれあい科学館)
柿野 亘(北里大学獣医学部)
成田 勝(東北緑化環境保全株式会社)
團 重樹(東京海洋大学海洋生物資源学部門)
竹内 基(岩手県立久慈高等学校)

淡水二枚貝カタドブガイの幼生が寄生して稚貝まで育つことのできる相手「宿主」を飼育実験で明らかにしました。新たに判明した宿主はヤチウグイやエゾホトケドジョウなどの8魚種で、既報と合わせた宿主の種数は計24種となりました。さらに、変態を完了して宿主から離脱した稚貝の育成を試み、約2ヶ月間で幼生時の4倍以上のサイズまで育てることに成功しました。



水生動物 Vol. 2024 (査読付論文) 2024.6公開

相模川河口域における希少種を含む カニ類8種の注目すべき追加記録

著者：伊藤 寿茂(相模川ふれあい科学館)
崎山 直夫(新江ノ島水族館)

相模川の河口域でカニ類の調査を行い、公式な記録がない、もしくは少ない8種類について、標本に基づく生息記録として報告しました。特に、アカテノコギリガザミ、ツノメガニ、ミナミイワガニ、ヒメアカイソガニの4種は、相模川からの初記録種ということになり、アカテノコギリガザミとミナミイワガニの2種は、相模川が新たな北限生息地となりました。



自然環境科学研究 Vol.37 (査読付論文) 2024.12公開

相模川におけるタカノケフサイソガニ *Hemigrapsus takanoi* Asakura & Wanatabe, 2005の標本に基づく記録

著者：伊藤 寿茂(相模川ふれあい科学館)

相模川での調査で採集されたカニ類の中から、タカノケフサイソガニを識別し、標本に基づく生息記録として報告しました。もともと本種は、外見のよく似たケフサイソガニと区別されておらず、新種として分けられるまではその生息状況が不明でした。この度の調査によって相模川にタカノケフサイソガニとケフサイソガニが同所的に生息することが確認されました。



ミニ 企画展示

「もっと知りたい相模の自然」

伊藤 寿茂

「もっと知りたい相模の自然」をテーマにした本企画は今年で8年目に突入です。当館のある相模原市や相模川の流域、その先にある相模湾には、まだまだ紹介したい自然がたくさんあります。それらの現状を後世にお伝えするために、数々の団体や機関が調査・研究を行っており、様々な方法で普及啓発に努めています。当館ではその役割の一端を「ミニ企画展示」が担っています。小さな展示の中には、私たちだけでなく、多くの協力者の探求心がつまっています。この場をお借りして、ご協力を頂いた方々に心よりお礼を申し上げます。

大発見！コイがソウギョをお掃除するって？

展示種：ソウギョ、コイ

当館の水槽内で驚くべき行動が目撃されました。大きなソウギョに小さなコイが近づいていき、ソウギョの体を何度もなめたのです。ソウギョは逃げるどころか、ヒレを広げ、体を傾けてコイになめられるのを受け入れました。この行動はコイによるソウギョへの掃除行動だと考えられました。淡水魚同士の掃除行動は大変珍しいものです。その成果の論文公表に合わせて、分かりやすくご紹介しました。

協力：北里大学海洋生命科学部
期間：2024.1.16～4.14



“シラサギ”ってどんな鳥？

展示種：アオサギ(標本)、ゴイサギ(標本)

水辺でよく見ることのできる鳥の一つに「サギ」の仲間があり、相模川周辺でも何種類かのサギの仲間を見ることができます。白いサギのことを、よく「シラサギ」と言いますが、実は「シラサギ」という種名の鳥はいません。私たちの身近で見ることのできるサギの仲間の見分け方や生態などを、標本や原寸大パネルを用いてご紹介しました。

協力：相模原市立博物館
期間：2024.4.16～6.30



調べてみよう！ 串川にすむ生き物

展示種：ヘビトンボ(幼虫)

相模川の支流である一級河川の串川は、相模川水系の中でも、自然度の高い河床・河岸環境が残されている水域です。当館では、2023年度に串川の水生動物相の調査を行いました。その調査の方法や結果を中心にご紹介し、併せて生息が確認された生物の展示を行いました。

協力：相模原市立博物館
期間：2024.7.2～10.6



相模川にすむ南方の生き物たち

展示種：クロホシマシジキウダイ、
テンジクカワアナゴ、オオヒライソガニの仲間

相模川ではときどき、本来ならもっと南方でくらしている生き物がみつかることがあります。黒潮によって流されてくるためです。ただ、ほとんどは相模川の冬の寒さを生き抜くことができません。しかし、うまい具合に温排水が出る場所では、冬を生き抜いた個体が見つかることがあります。今回はそんな、実際に相模川で見つかった南方の生き物を、東海大学北野研究室の学生さんたちと協力して展示しました！

協力：東海大学教養学部北野研究室
期間：2024.10.8～2025.1.19



Off-campus events

たなさんぽ | 2024.3.2 伊藤 寿茂

春から夏にかけて行われることが多い当館の館外イベントの中では珍しい、早春期のイベントです。ここのところ天候に恵まれず、実に3年ぶり、2回目の開催となりました。「さんぽ」の名称通り、館のまわりをぐりと歩き、相模川まで向かいます。その途中にある数々の自然スポットをご案内していきましました。今年は、敷地内の公園の池でアズマヒキガエルが卵を産んでいました。すくって見せると、みんなその奇妙な見た目にくぎ付け！スタートから幸先が良いです。その後、館の北側にある坂を登り、大昔はここが川だったことを説明し、またもや驚きの声があがります。ゴールの河原で注目したのは石です。石の種類を手触りや模様で区別しながら説明していくと、意外にも興味を持つ方が多かったです。話し手のこちらとしても、皆さまの興味がどこに向いているか分かり、勉強になる「さんぽ」でした。



いきもの観察会 | 2024.9.7 亀ヶ谷 千尋



前回・前々回と天気に恵まれなかったいきもの観察会ですが、今回はようやくの晴天！そして、開始早々に木の樹名板の裏に隠れているヤモリを見つけ、幸先良いスタートとなりました。開催地である神奈川県立津久井湖城山公園は、小さな山を中心とした公園ですが、森や草原、小さな沢など色々な環境があり、生き物観察にもってこいの場所です。木々の生い茂る場所では、ムササビの食痕やシカの足跡を見つけ、草原ではバッタやチョウの仲間を捕まえることができました。今年で5回目の開催となるいきもの観察会ですが、いつも見ることのできる生き物もあれば、新しい発見もあります。今回は、初めてノウサギやイタチの糞を見つけることができました！そして、いつも参加者から良い反応を引き出すフクラスズメというガの幼虫は、今回もブンブンと盛大に体を振り、一番の歓声を受けていました。

親子で川釣り体験ツアー | 2024.10.12 山田 一輝

2年ぶりに川釣り体験ツアーを実施しました！昨年は天候に恵まれず、泣く泣く中止となってしまいましたが、今年はとても良い天気の中イベントを行うことができました！川釣り未経験の方を対象にしたイベントで、釣り竿やエサ、仕掛けなどはこちらで用意します。糸を巻くリールなどを使わない、竿と糸、釣り針とウキだけの単純な釣り方でトライ！釣り竿を握ったこともない子達も、あれやこれやと工夫して、ときにはお父さんお母さんや当館スタッフにアドバイスをもらいながら川釣りを楽しみました！肝心の釣果は、大漁！！とはいきませんでした。ほとんどの参加者が1匹以上釣りあげる上々な結果でした！釣れたのはウグイ、アブラハヤ、オイカワ、ヌマチチブでした。まさしく相模川の中流域を代表するような面々です。川釣り体験ツアーを通して身近な相模川の自然に親しみを持ってもらえたなら、真の意味でイベントは大成功ですね！



田植え前

田植え

観察会

ふれあい田んぼ 探検隊

展示飼育部 山田 一輝

ふれあい田んぼ探検隊では、5月の「田植え」、8月の「観察会」、9月の「稲刈り」、10月の「収穫祭(脱穀・風選・籾摺り・精米)」と、計4回のイベントで一年を通じてお米づくりを体験していただきました。

今年は「稲刈り」が天候不良のため中止となってしまいましたが、他のイベントでは多くのお客様にご参加いただき、たくさんのお米を収穫することができました。

はじめて田んぼに入るお子様も多く、田んぼの深さやイネの香り、田んぼにやってくる様々な生き物たちなど、いろんな新しい発見をしてくれたことと思います。

知識や想像力、そして楽しさ。イベントを通じてお米だけじゃない収穫があったなら、よりいっそう嬉しく思います。

精米

籾摺り

風選

脱穀

収穫後

乾燥した稲

収穫前

川の生き物探し!! | 2024.11.9 西田 征晃



今年度、相模川支流である串川で初開催となった館外イベント「川の生き物を探してみよう！」では、タモ網や投網を使って、生き物の生態にあわせた採集方法を解説しながら、川の生き物の採集体験をしていただきました。冬も近づき川の水もかなり冷たくなっていったため、あまり生き物が採れないのではと心配していましたが、参加者の皆さんが採集上手で想像以上に多くの生き物を見つけることができました。普段よく見かけるアブラハヤや、あまり見かけないホトケドジョウなどの魚類をはじめ、カゲロウやカワゲラ、ヤゴなどの水生昆虫までおよそ20種の生き物を観察することができました。採集後には、生き物の解説をしながら観察ノートに生き物の名前や特徴を書いていただきました。中にはお気に入りの生き物の絵を上手に描いているお子さんもいらっしゃいました。今回はみなさんにとっても楽しんでいただけたと思うので、来年度も引き続き実施していきたいです。



特別企画展 とぶ！生き物展

飛ぶ・翔ぶ・跳ぶ「とぶ」が大集合

生き物の様々な 「とぶ」方法やその理由

生き物の中には「とぶ」ことができるものがあります。

代表的な例に、「羽」で飛ぶ鳥類がいます。

“翅”で飛ぶ昆虫類では、トンボやハエなど、はねの枚数で飛び方が異なります。

一方で、羽のない哺乳類のモモンガやハ虫類のトビヤモリのように木から木へとぶ(滑空)ものもいたり、両生類のカエルや魚類のアロワナのように陸や水面でとぶ(跳躍)ものもいます。さらに、植物でもタンポポのように、風力で種が飛ぶものもいます。

今回は、「飛行」「滑空」「跳躍」など「とぶ」能力を持つ生き物をご紹介します。



ヤマアカガエル



イフトビベンケイガニ



トビハゼの仲間



イタヤカエデ



カイロトゲネズミ



コモンチョウ



植物の種飛ばしハンズオン展示



キンカチョウ

展示飼育部
西田 征晃

企画者
コメント
Comment

今回の企画展で特に難しいと感じた点は、やはり「とんでいるそのシーン」を見てもらうことでした。ほとんどの生き物が常にとんでいるわけではないため、生体展示だけでなく標本や動画、ハンズオン展示で補いながら企画を進めていきました。その結果、生体展示がかなり少なめになってしまったのですが、中でも私のイチオシだったのが「飛行」のブースで展示した5種10羽のオーストラリアフィンチ(小さなスズメの仲間)たちです。これは、自宅で何種か飼育しているほどフィンチが大好きな私がいつか実現してみたかった展示でもありました。想像以上に様々な動き(飛んだり、鳴いたり、水浴びしたり)を見ていただけたからか、来館者の方からの反応も良く、展示としては成功だと感じました。

そして、ハンズオン展示では床で立ち幅跳びをして他の生き物とジャンプ力を比べてみたり、ボタンを押すと下から風が出て回転落下型の植物の種を飛ばせる装置も設置しました。どちらも、お子さんを中心に楽しんでいただけたように思います。

最後に、当館では過去に、「もぐる生き物展」、「くっつく生き物展」など生き物の動きをテーマにした企画展を実施しました。今回は「とぶ生き物展」だったので、いつかまた他の動きをテーマにした企画展を考えてみたいものです。

サイエンスカフェ開催

企画展の開催に合わせて、鳥の専門家でもある山崎先生をお招きして、サイエンスカフェ「鳥の飛び方講座」を開催しました。

残念ながら雨天でバードウォッチングには出られませんでした。様々な鳥の飛び方についてクイズやワークシートを交えながら、1時間お話ししていただきました。次回はどんなサイエンスカフェが開催されるのでしょうか。乞うご期待。



ヒゲベンギン(標本)

シルバーアロワナ

コキンチョウ

立ち幅跳び体験コーナー

特別企画展
いきもの
超☆能力展
～身についたこのパワー～

ワモンダコ

超能力のような
生き物たちの生き抜く力

私たちのくらす地球には数多くの生き物たちがいます。
厳しい自然界を生き抜くために、生き物たちは様々な能力を獲得しました。
電気を使って狩りをする魚や、色々なところにはりつくことができるヤモリ、
分身するヒトデなど、まるで“超能力”のような特技をもつ生き物たちもいます。
本企画展では、超能力のようにすごい特技をもつ生き物たちをご紹介します。



ビッビィ

カーリーヘアタランチュラ

ボールパイソン

チョークバスレット

セキセイインコ

メキシコサラマンダー

サツマカサゴ

ルソンヒトデ

ハス

ヒゲハギ

シカクナマコ

企画者
コメント
Comment

展示飼育部
亀ヶ谷 千尋

子供のころ、誰も一度は物語の主人公がもつような超能力にあこがれたことがあるのではないのでしょうか。手から衝撃波や電気を放つことができたり、私たちには見えないものが見えたり。私たち人間にとってはアニメや漫画の世界の話ですが、自然界には電気を放つ生き物も、衝撃波を放つ生き物もいます。

“事実は小説より奇なり”といいますが、おしりから100℃のガスを噴射するミイデラゴミムシや、水の上を走ることができるグリーンバシリスキなど、地球上には摩訶不思議な能力を持つ生き物たちがたくさんいます。

その中でこの企画展で実際に展示できたのはごく一部の生き物たちでしたが、今回私が展示を楽しみにしていた生き物のひとつが「シカクナマコ」です。シカクナマコは触るなどの刺激を受け続けると、体がドロッと溶けてしまうのです。これは、シカクナマコが天敵から逃げるための能力のひとつなのですが、再生能力の強いナマコは体が溶けてもしばらくすると元に戻ります。

初めてシカクナマコが溶ける動画を見たときは衝撃を受けました。実物に触ってみても、やや硬めのナマコという感じで、この体が溶けるなんてやはり信じられません。

こういった生き物たちの見ると、なんでこんな能力を獲得できたのか、あらためて進化の不思議を感じます。

ニジイロクワガタ

モンハナシャコ

超能力当て
クイズ

この生き物の能力な〜んだ?

特別企画展 貝展

～みんな知ってるカイ?～

生きた芸術「貝」をたしなむ

「貝」と呼ばれる生き物がいます。
軟体動物に属する生き物たちで、世界におよそ10万種類が知られています。
それらの多くが備えている貝殻は、古くからお金や宝石、
コレクションアイテムとして、人々の暮らしを彩り続けてきました。
一方で、生きた貝のくらしぶりを、じっくりと見る機会はありません。
今回の企画展では、25年以上にわたって貝の生態を調べ続けてきた館長が、
生きた貝を主役にした、ユニークで楽しい特別展示を目指しました。



コブヨコハサミ

クチベニマイマイ

アオミオカタニシ

ホソマキカワニナ

ハリママイマイ

アマオブネガイ

企画者
コメント
Comment

館長
伊藤 寿茂

皆さまにとって「貝」とは、どんな存在でしょうか。
多くの場合、お寿司やお味噌汁に入っている、磯の香り漂う食材としてイメージされることでしょう。それは私も同じですが、知れば知るほど奥が深く、面白い存在なのです。

大学生の頃、ひょんなことから川にすむ二枚貝を研究することになり、それ以来、貝について調べることが私のライフワークとなり、気づけば四半世紀が過ぎたのでした。

水族館において、脇役に甘んじていることが多い貝たち。動きが少なく、水底や岩肌でじっとしている印象が強いはずですが、その魅力を最大限お伝えすべく、当館に魅力的な貝たちを大集合させました。海からはサザエやタカラガイといったおなじみの種類だけでなく、一見すると貝とは思えないタコの仲間も登場です。大きなツノモチダコは、知り合いの漁師さんに漁獲して頂き、小さなイイダコは、大学でタコの生態を研究している同級生が繁殖させた仔ダコを譲り受けました。陸からは様々なカタツムリが登場です。特に「食べられるカタツムリ」として有名なエスカルゴ(ポマティア)。その繁殖を手掛ける専門機関から、貴重な個体をお借りして、生きたまま展示することが叶い、展示中に産卵とふ化まで観察できる機会に恵まれました。そして川からは、私が生涯をささげて調べ続けている二枚貝の中から、世界最大級で、琵琶湖固有種でもあるイケチョウガイを展示することが叶いました。

館にお越しになった方々の中に、これら貝の面白さに気づいた方がおられたなら、貝の専門家としても館長としても、展示したかいがあったと思います。

ハナビラダカラ

ホラガイ笛

ウロコフネタマガイ

アンモナイトスネール

イイダコ

エスカルゴ

ドブガイ

相模湾の深海で

ツノモチダコ

アラフラオオニシ

ヤマナメクジ

サルビンオオニオイガメ

ゴシキカノコ

特別企画展 溪流展

～川がはじまるところ～

小さな流れから はじまる大きな循環

溪流とは、大きな岩や粗い砂利などで構成される河川の上流部のことをいいます。川幅が狭かったり、水の流れが速かったりと、とても生き物がくらするようには見えなないかもしれませんが。しかし実際には様々な生き物がくらし、他の生き物へと命をつないでいます。本企画展では、溪流の役割やそこでくらすユニークな生き物たちをご紹介します！



アオバズク

ニホンザリガニ

アマゴ

カシカ

アカボウズハゼ

企画者
コメント
Comment

飼育員
山田 一輝

溪流ってとても魅力的な環境ですよ！豊かな森林に囲まれ、涼しく水が流れ、鳥の鳴き声や風で葉が揺れる音…想像するだけでリラックスしてしまいそうです。ただ、そこにくらす生き物たち視点で見るとどうでしょう。川が狭く、流れが速く、土砂崩れで埋まってしまうこともある溪流は、とても過酷な環境ともいえます。実際に魚の種数で見ると、中・下流域と比べはるかに少なくなります。その一方で、溪流だからこそ見られる、溪流にしかない種がほとんどです。

私はずっと溪流の生き物たちにフォーカスを当てた企画展をしたいと考えていました。ただ溪流をテーマにする上で、私が大事だと考えたのは「生き物」以上に「溪流」が持つ役割です。溪流、つまり川のはじまる場所は、水だけでなく山や森などの陸と密接に関わる場所です。山や森の栄養が川へ、川の栄養が山や森へ。そんな密接に栄養をやり取りする場所が溪流です。当然川は海へとつながるわけですので、溪流は山、川、海をつなぐ玄関になっているのです。まさに、小さな流れからはじまる大きな循環です。私はそこに溪流の大きなロマンを感じました。

溪流のそばに立ち、染み出る水、流れていく落ち葉を見ると、これがゆくゆくは海へと届くんだなあ、などとこの先の長い旅路に思いをはせてしまいます。まるで子供の時に笹船を川へと送り出した、あの時の気分です。

本企画展で溪流の生き物の面白さもそうですが、そんな溪流のロマンも感じ取ってもらえたならとてもうれしく思います。

アカボウズハゼ

ナガレヒキガエル

オニヌマエビとミナミオニヌマエビ

FUREAI マンスリー水槽

1月

シシマイで
今年もいい年に



オランダシシガシラ

獅子舞は「邪気払い」や「疫病退散」の意味を持つ正月の縁起物です。金魚の品種のひとつ「オランダシシガシラ」は、獅子舞の獅子を思わせる顔が特徴です。

2月

あなたも
コイするさかなたち



ダニオ・マルガリタトゥス、ゼブラダニオ、トリゴノスティグマエスベイ

バレンタインデーの“恋”を“コイ”にかけまして、きれいなコイの仲間たちをハートいっぱいの水槽でご紹介しました。

3月

いちごの
おいしい季節



マンジュウシモチ

3月はイチゴのおいしい季節です。海にくらすマンジュウシモチは、体の後半にある赤い水玉模様から、一部の愛好家に“いちごパンツ”と呼ばれることがあります。

4月

ひらひらと
舞う桜の花びら



ライトピンクベタ(改良品種)

体色や鰭の動きが、ひらひらと舞う桜の花びらのように見えるピンク色のベタを、お花見をイメージしたレイアウトで展示しました。

5月

さくらんぼが
およいでる!?



チェリーパルプ

さくらんぼが旬を迎える5月では、さくらんぼのような赤い体の特徴のチェリーパルプをご紹介します。

6月

梅雨の晴れ間に
潮干狩り?



アサリ、ハマガニ、アシハラガニ

6月は、昼間に潮がひく日が多いため、磯遊びや潮干狩りに向くシーズンです。潮干狩りのターゲットとなるアサリとともに、まわりで見られるカニたちを展示しました。

7月

花火をまとう魚



ダニオ・マルガリタトゥス

夏は花火の季節です。2006年にミャンマーで発見された、ダニオ・マルガリタトゥスは、夜空を彩る花火のような模様を持つことから、別名「ハナビ」とも呼ばれます。

8月

スポーツの
祭典開幕!



カーディナルテトラ

2024年8月に開催された4年に一度のスポーツの祭典が行われた競技場をイメージして、体の模様が開催国の国旗に見えるカーディナルテトラを展示しました。

9月

秋の鳴く虫
～スズムシ～



スズムシ

秋の鳴く虫を代表するスズムシを、縁側と月とススキなど秋の情緒たっぷりな水槽でご紹介しました。

10月

ジャックオー
ランタンの灯火



ファイアーテトラ

10月はハロウィンをテーマに、妖しい雰囲気の水槽でファイアーテトラを展示しました。ジャックオーランタンを灯す小さな炎が泳ぐ姿をご覧ください。

11月

霜のふる月



ゴールデンモグニー

11月は別名「霜月」とも言われ、霜がおりてくる時期であることが由来とされています。ゴールデンモグニーの細く、銀色に輝く体はまるで霜の様に見えませんか?

12月

によろによろ
アドベントカレンダー



ヘリゴイシウツボ
ゼブラウツボ、クモウツボ

12月といえばクリスマス!ということで、アドベントカレンダーからよると顔を出すウツボの仲間たちをご紹介します。

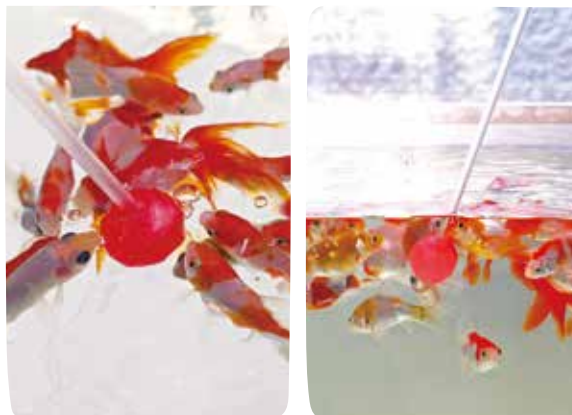
FUREAI ミニトウク水槽

金魚に色が
分かるって本当!?

生物種: 金魚

生き物によって見えている世界は違います。例えば色。金魚はヒトよりも色を見分ける能力が優れていると考えられており、紫外線も色として見えていると言われています。では、本当に金魚には色が見分けられるのでしょうか? 特定の色に集まるようにトレーニングした金魚で実験してみました!

期間: 2024.1.23 ~ 4.21



かた〜い貝を割って食べる!
ネコザメ

生物種: ネコザメ

浅い海の藻場や岩礁域にすむネコザメは、硬い貝殻を割って食べることができる丈夫な歯とアゴをもっています。サザエですら噛み砕くことができる力強さの反面、一般的なサメにイメージされる、大きな体や凶暴さ、鋭い歯ではなく、小柄でとても温厚です。名前もかわいいですね。このギャップが魅力的ですが、普段の展示ではなかなか力強さの方をお見せするのが難しいので、今回はそこにフィーチャーしてご紹介しました。イベントでは実際に貝を割って食べる様子をご覧くださいました。

期間: 2024.4.23 ~ 6.23



水中からジャンプして
獲物を捕らえる!

生物種: シルバーアロワナ

南米のアマゾン川に生息するシルバーアロワナは、水面付近を飛んでいた、枝木に止まっている昆虫を捕らえる時に水面からジャンプします。今回は、シルバーアロワナがジャンプする理由を解説し、その様子をイベント内の実験で観ていただきました。展示期間中、最高で65cmのジャンプを見せてくれました。

期間: 2024.6.25 ~ 10.20



発電する魚!
デンキウナギ

生物種: デンキウナギ

デンキウナギは最大800Vもの電気を出すことができます。さらに、使いたいときに使いたい量を出すように上手にコントロールしています。そうして「身を守る」、「獲物を捕る」、「まわりを探る」など、いろいろな用途で電気を駆使しているのです。電気をうまく生活に役立てている究極のお魚かもしれません。

期間: 2024.10.22 ~ 2025.1.19



海の生き物水槽



モグモグサラサラ 砂を食べる魚！?

生物種：アカハチハゼ



アカハチハゼは暖かいサンゴ礁の海でくらすハゼの仲間です。その動きを観察すると、口に砂を入れてはエラから出すを繰り返します。

これは砂の中に潜んだ獲物を砂ごと口に入れて、食べられない砂だけをエラから出しているのです。今回はアカハチハゼの独特な摂餌行動をご覧いただきました。

期間：2024.1.16～4.21

魚を掃除するエビ

生物種：オトヒメエビ、シロボシアカモエビ、
アカシマシラヒゲエビ、
スザクサラサエビ、クモウツボ



海の生き物の中には、他の生き物の体に付着している寄生虫などを食べて掃除する「クリーナー」と呼ばれるものがあります。クリーナーシュリンプの仲間と魚たちの関係について解説しました。

期間：2024.4.23～7.7

カニのぜんしんデコレーション！ 着飾るのはなんのため？

生物種：モクズシヨイ



モクズシヨイはいつもふわふわポコポコ、なにかを体にくっつけています。周囲にある藻屑やカイメンなどを体にくっつけることで、周りにとけ込んで隠れるためです。この行動は藻屑以外でも見られます。毛糸やフェルトが周りにあれば、それをせっせと体にくっつけるのです。色とりどりの飾りを全身に纏うその姿はまるでデコレーション！今回はそんなモクズシヨイのユニークな行動をポップでキュートにご紹介しました！

期間：2024.7.9～10.27

甲羅をもつ魚

生物種：ミナミハコフグ、シマウミスズメ、
コンゴウフグ



ハコフグは、全身を硬い甲羅に覆われています。この甲羅は、ウロコが変化した骨板が連結してできたものです。箱状の甲羅をもつハコフグについて解説しました。

期間：2024.10.29～2025.1.26

小川の実験観察テーブル

水槽掃除をお手伝い！? たよりになるボウズハゼ

生物種：ボウズハゼ



ボウズハゼがいる水槽は、掃除をしていないのにピカピカ！ボウズハゼが表面についたコケ（藻類）を食べてくれているためです。飼育員としてとても助かるこの習性を、2つの水槽を用意して比較実験しました！水槽の中央に実験用のアクリル板を配置し、片方にはボウズハゼ、もう片方にはスミウキゴリを入れて経過を見ていくと、ボウズハゼの方だけつるつるピカピカ！見事な掃除能力を見せてくれました。まさしく、たよりになるボウズハゼ。お客様にも楽しんでいただきながら、ユニークな能力をお伝えできました。

期間：2024.1.23～4.14

どこに産む？ ～メダカの産卵実験～

生物種：ミナミメダカ



水槽内で水温や日照時間などを調整し、春から夏の環境を再現することで一年中卵を産むことができるメダカの特徴を生かして、様々な産卵床を用いたメダカの産卵実験を行い、その様子をご覧いただきました。併せて、ふ化後には稚魚の展示も行いました。

期間：2024.4.23～6.30

メダカは海水でも 生きられる！

生物種：ミナミメダカ、ドジョウ、カクレクマノミ



小川の代表的な淡水魚のメダカですが、実は慣らすと海水でも生きていくことができます。田んぼや用水路などにすむイメージの強いメダカが、代表的な海水魚であるカクレクマノミと一緒に泳いでいる姿は、ぎょっとしてしまうほどインパクトがあります。今回はそんなインパクトとともに、そもそもなぜ海水で生きていけるのかわかりやすくご紹介しました。

期間：2024.7.2～10.27

見分けてごらん！相模川にすむ サワガニとヒメアカイソガニ

生物種：サワガニ、ヒメアカイソガニ



紅葉シーズンにちなみ、赤茶色の体色を持つ相模川で見ることのできるカニを2種類並べて展示しました。見た目も行動もよく似ている2種類をよく観察して、その違いを見分けながら楽しみました。

期間：2024.10.29～2025.1.26

水辺の生き物水槽

生物種：カヤネズミ、ニホンイシガメ、
アオダイショウ、シマヘビ、ムカシツチガエル

今年度は、久しぶりに登場した生き物がいます！シマヘビとムカシツチガエルです。

シマヘビは4年ぶり、ムカシツチガエルは3年ぶり（水辺の生き物水槽において）です。ムカシツチガエル *Glandirana reliquia* は2022年に新種として記載されたので、当時はまだツチガエル *G. rugosa* としての展示でした。どちらも当館周辺の水辺を代表する種ですが、そこら中にいるわけではなく、ムカシツチガエルに関しては相模原市ではごく限られた場所で見つかりません。新種というトピックスだけでなく、相模原市での生息状況も踏まえてご紹介しました！

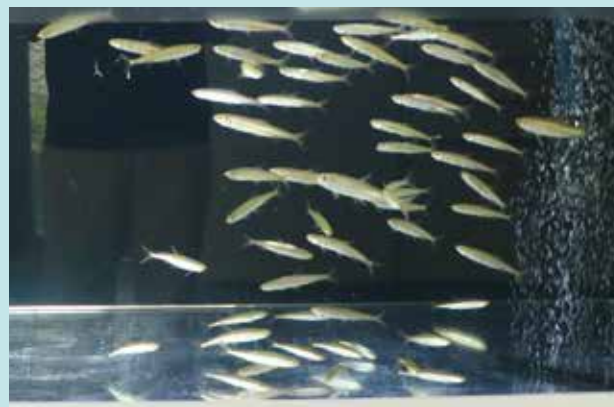


常設トピックス

長期飼育への挑戦！ 釣りで人気のワカサギ

2024.10.18～2025.4.13

唐揚げや天ぷら、佃煮にすると美味しく、釣りの対象魚としても人気のワカサギを展示しました。生体は栃木県の中禅寺湖で釣り採集してきました。長期飼育が難しく、毎日試行錯誤を繰り返しながら、2025年4月まで約半年間展示を継続できました。2025年もまた挑戦できればと思います。



インターンシップ・ 学芸員実習

2024年1月～12月

今年度のインターンシップには計22名の学生が参加しました。学芸員実習として参加している学生には、当館での日常業務はもちろん、展示水槽の作製や、解説イベント、特別企画展の入れ替え作業などを体験していただきました。実習中に学んだことを今後に生かしてほしいと思います。



ものづくり ワークショップ

営業・管理部 成田 有紀

10年目を迎えたものづくりワークショップ。今年も沢山のお客様にご参加いただきました。特に夏休みには過去最高の参加数となり、多くの方々ご参加いただいたことをうれしく思います。皆様の作品にはそれぞれ個性があり、見本を見ながら作る方や新しいアイデアを形にする方、一緒に来た方と相談しながら作品を作る方。どの作品も素敵な個性にあふれています。出来上がった作品を披露していただいたときは、私も楽しい気持ちのおすそ分けをいただいた気持ちになります。作品はもちろん、その時の思い出も一緒に持ち帰りいただけたらと願っております。ものづくりワークショップは小さなお子様から大人の方まで、どなたでもご参加いただけます。ご来館の際はぜひ遊びに来てくださいね！

ものづくりワークショップ開催一覧 (2024年1月1日～12月31日)

いきもの風づくり	1月 1日～ 1月15日	土日祝日・冬休み期間	有料
トントンずもう	1月 9日～ 2月10日	平日	無料
しゅわしゅわおさかなバスボム	1月21日～ 2月25日	土日祝日	有料
びよびよこいきものカップ	2月13日～ 3月22日	平日	無料
タレピンでつくろう！おさかなキーホルダー	3月 2日～ 4月14日	土日祝日・春休み期間	有料
いきものスタンド	4月 9日～ 5月31日	平日	無料
スタンプエコバッグ	4月20日～ 5月26日	土日祝日	有料
コルクマグネット	6月 1日～ 7月 7日	土日祝日	有料
紙コップクレーンゲーム	6月 4日～ 7月19日	平日	無料
ボトルアクアリウム	7月13日～ 9月 1日	土日祝日・夏休み期間	有料
ゆらゆらおさかなりこぼし	8月26日～ 11月 1日	平日	無料
ルアーキーホルダー	9月 7日～ 10月 6日	土日祝日	有料
貝フレーム	10月12日～ 11月24日	土日祝日	有料
クリスマスシーソー	11月 5日～ 12月20日	平日	無料
カラフルスノードーム	11月30日～ 12月25日	土日祝日・冬休み期間	有料

■アクセス Access



電車 バス ご利用	JR 横浜線 相模原駅南口より神奈川中央交通バス「水郷田名」行き「ふれあい科学館前」バス停下車すぐ			
車を ご利用	国道16号線	相模原駅入口	県道503号	上溝
	圏央道 相模原愛川IC		上溝バイパス	県道54号

■入館料金 (税込)

区 分	個 人	年間パスポート	団体 (20名以上)
大人 (高校生以上)	450円	1,350円	360円
小人 (小・中学生) ※1	150円	450円	120円
シニア (65歳以上)	220円	660円	170円
幼児 (小学校就学前) 障がい者と同伴の大人1名※2 ひとり親家族等※2	無料		

※1 相模原市の子どもの施設使用料等の無料化に伴い、市内にお住まいの小・中学生、市内の小・中学校に通う児童生徒は無料で入館いただけます。
※2 入館時に証明できる各種証明書 (写しでも可) のご提示が必要です。

- 開館時間 9:30 ~ 16:30
イベント開催等により営業時間変更の場合あり
- 休 館 日 月曜日 (月曜日が祝日等の場合は開館)
ただし、春休み・夏休み等の長期休暇期間は毎日開館



運営会社のご紹介

2014年1月より、相模原市から指定管理業務を受諾させていただいております株式会社江ノ島マリンコーポレーションは、下記水族館の運営業務も行っております。



相模湾に面し、右手に富士山、左手に景勝地・江の島が控える絶好のロケーションに立地する「新江ノ島水族館」は、“わくわくドキドキ冒険水族館”をコンセプトにしています。



日本や世界の淡水域に生息する生物を紹介している「世界淡水魚園水族館 アクア・トトギス」は、岐阜県によって整備され環境学習体験を実践する場として親しまれています。



〒252-0246 神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1
TEL.042-762-2110 FAX.042-761-2665
<https://sagamigawa-fureai.com/>

【指定管理者】株式会社江ノ島マリンコーポレーション 【第一種動物取扱業の実施に係る掲示】氏名又は名称：相模原市 事業所の名称：相模原市立相模川ふれあい科学館 事業所の所在地：神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1 動物取扱業の種別：展示 動物取扱業の登録番号：生衛 第204-00012号 登録年月日：2014年3月10日 登録の有効期限の末日：2029年3月9日 動物取扱責任者の氏名：亀ヶ谷 千尋

